



講座・イベント

第18回 港区民音楽祭 ～ひまわりコンサート～

無料
申込不要

港区内で活動しているコーラス、ゴスペルグループによるコンサートです。ご来場いただいた皆様にも一緒に歌っていただける「みんなでいっしょに歌いましょう」のコーナーもございます。ぜひご来場くださいませ。



日時 11月23日(日)開演13時～(開場12時30分)
場所 港区民ホール(交流会館7階)

問合せ (一財)大阪市コミュニティ協会港区支部協議会
☎6572-0020 FAX 6572-0274

港区制100周年記念フォーラム 2025 港区つながる見本市

無料
申込不要

地域の歴史や文化、まちづくりをテーマに、講演やパネルディスカッションを通じて港区の新たなつながりを考えます。区制100周年を機に、地域のみなさまの“思い出”を共有し、未来へ継承していきます。世代や地域を越えた交流の場です。ぜひご参加ください。

日時 11月29日(土)14時～16時(開場13時30分)
場所 港区民ホール(交流会館7階)

問合せ 港区まちづくりセンター
☎6563-9381 FAX 6563-9382

みなと消防フェスタ開催!

無料
申込不要

秋の火災予防運動の一環として港消防署を開放しイベントを開催します。ぜひご参加ください!
※詳細はホームページ等をご覧ください。▶



日時 11月15日(土) 10時～13時
場所 港消防署(弁天1-4-1)

問合せ 港消防署(予防担当)
☎6573-0119 FAX 6573-0325

大阪湾岸 防災対策見て歩き ～津波・高潮対策の現場を見てみよう～

無料
先着順

日時 12月7日(日) 10時30分～17時
見学先 見学ルート歩行距離約5km、一部電車で移動
①津波・高潮ステーション
②港区土地区画整理記念・交流会館、地盤かさ上げ地(市岡高校付近)
③尻無川水門
④大地震両川口津浪記石碑

対象 小学生以上
(小学生は保護者同伴)

定員 20名程度(先着順)
11月5日(水)より募集開始
QRコードより申し込みください▶



費用 無料(交通費は自己負担)
協力 港区役所

問合せ CVV(シビル・ベテランズ&ボランティアズ)
質問等は下記アドレスまで
shimin_kengakukai@cvv.jp

大阪プール アイススケートオープン

2シーズンぶりにオープンします。オリンピックイヤーの今シーズン、大いにスケートをお楽しみください。
※ご利用には手袋が必要です。



日時 11月28日(金) 10時から
火～土曜 10時～17時、日曜・祝日 10時～18時30分

場所 Asue大阪プール
費用 大人:1,400円/回 こども・高齢者:800円/回
※別途貸し靴500円/回必要

申込 直接お越しください

問合せ Asue大阪プール管理事務所
☎6571-2010 FAX 6571-2023



相談

不動産相談

無料
要申込
先着順

日時 11月13日(木) 13時～16時
場所 区役所 1階
申込 電話で受付(先着順)



問合せ 総務課(総務・人材育成)
☎6576-9625 FAX 6572-9511

区制100周年記念

みなとの100年、みんなの物語

～これまでも これからも この地域と～

港区の中央部に位置する磯路地域。地域の中心には、人々の憩いの場になっている緑あふれる磯路中央公園があります。隣接する「三社神社」は、「三社さん」の愛称で親しまれ、夏祭りの時には毎年多くの人で賑わいます。今回はそんな磯路地域の子育てや見守り活動について、地域活動協議会の古島さん、武内さんにお話を伺いました。

「義務ではなく、愛のある活動が大切

磯路地域のテーマは「愛があるまち」です。「この話になると、地域活動協議会の会長はすぐに『AIちやいますよ、愛ですよ』と冗談を言うのですが、スタッフも義務感ではなく、真心を込めて活動することを大切にしています」と古島さんは笑顔で語ります。

その言葉どおり、まちの中心にある会館では子育てサロンやふれあい喫茶など、年齢や性別を問わず、誰でも参加できるイベントが開催されています。なかでも「いそじ〜らんど」では、夏のスイカ割りや秋のハロウィンなど、季節を感じる創作活動やレクリエーションが毎月企画され、地域のこどもたちにとって大切な居場所となっています。「学校に通えていないお子さんや、見守りの対象となっているお子さんが参加してくださることも多く、本当に大切な場です」と武内さん。地域の飲食店や住民のシェフが得意料理をふるまう機会もあり、9月の「月餅づくり」も、そうした中から生まれたアイデアなのだそうです。

「『簡単にできるメニューで、季節を楽しむ調理体験を』という話が出たとき、保護者の方が実はプロのシェフだと分かり、企画段階からスタッフに加わっていただきました」とのこと。小学校の先生が顔を出してくれることもあるそうで、地域の大切なつながりを育む場としても機能しています。

「本当に必要な方へ支援を届けるために

磯路地域では、ひとり親家庭に対して食材を配布する事業も行っています。「最近では企業や団体が、それぞれの形で食材



支援を行っています。『いそじ〜らんど』の活動を通じて、食事の準備が難しいご家庭があることを感じていたので、地域としてお話をいただいた以上は、必要なお家庭にきちんと届ける仕組みにしたいと思いました」と古島さん。そこで、地域の全世帯に配布している「地域活動協議会通信」の紙面で「支援が必要なひとり親家庭の方はご連絡ください」と呼びかけたところ、25世帯・約70名から応募がありました。食材を渡す際には、困りごとや健康状態を丁寧に聞き取り、必要に応じて各種制度のご案内や、学校や社会福祉協議会、行政機関などの連携も行っています。

「学校で会ったときに、味の感想を伝えてくれたり、『ありがとう!』と声をかけてくれるこどももいます」と武内さん。こどもたちの率直な言葉と顔の見える関係性は、安心して暮らせる地域の仕組みが根付いていることの証しです。



「デジタル×アナログの二刀流

二次元コードを利用したオンライン申請や、Instagramによる情報発信など、先駆的な取り組みに力を入れている

港区には、地域ごとに紡がれてきたまちの物語があります。区制100周年を機に、その過去と今を語り合い、これからの未来をともに思い描くインタビュー企画をお届けします。

磯路地域

磯路地域。「きっかけはやはり、コロナの緊急事態宣言でした。集まることができない状況が続くなか、これまで地域活動を支えてくださった世代の方が次々と引退を表明されて……、それでも何かしたいと思い、会長にオンライン会議の提案をしました」と古島さん。「新しい生活様式」に合わせた活動を模索してきた数年間で、担い手の世代交代が進んだこともデジタル化への追い風となりました、と当時を振り返ります。

一方、地域活動協議会を設立した2013年から月1回の発行ペースを守り続けている「地域活動協議会通信」も、大切な発信ツールです。2025年11月で153号を数えるこの紙面では、前月の報告から今後の予定まで、地域の主な行事がひと目で分かり、多くの住民の方々が楽しみにされています。制作を担当している広報スタッフは「毎月本当に大変なんですよ」と言いながらも、魅力的な紙面を作り続けています。

最後に、磯路地域の未来についてお聞きすると、「誰もが住んでいて良かった、住み続けたいと思えるようなまちにしたい」「一人ひとりが自分の住むまちを愛し、大切にしながら、未来につながっていくと思っています」と、声を合わせて熱い思いを語ってくれました。



ボランティア経験も豊富で、地域活動協議会の書記を務める古島智枝子さん(右)。地域活動協議会やさしさ部会に所属し、見守りコーディネーターも務める武内律子さん(左)。